



JICA-SATREPS プロジェクト

ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



ベトナム感染症・HIV/AIDS 学会で発表、PrEPに関する研修会（CME）も実施！
（2019年9月12日）

去る9月12日～14日、クアンニン省ハロン市において、ベトナム感染症・HIV/AIDS 学会の年次総会が開かれました。同学会は、我々プロジェクトのメインカウンターパートである国立熱帯病病院（NHTD）が運営している学会で、毎年学会ではベトナム全国の感染症専門家、医師、看護師、或いはそれら分野で協力する海外の研究機関やドナー機関などが集まって、色々な話題での議論が行われます。今回 JICA プロジェクトのトピックでもある HIV/AIDS は、その学会名にも表れているように重要な内容の一つです。



CME で講義頂いた水島先生（NCGM）

学会本体の各種発表に先立ち、9月12日にはCMEセッションが開かれました。CMEというとあまり聞きなれないかもしれませんが、Continuing Medical Educationの略、つまり医療従事者のための継続教育という意味です。ベトナムでは保健省の規定により、医療従事者は少なくとも2年間で48時間のCMEを受けなければならず、そこで常に医療知識に関するアップデート、ブラッシュアップをするよう義務付けられています。今回学会前のCMEもその時間数にカウントされるセッションで、NHTDが実施機関として修了証を発行します。こういう研修メカニズムに、今回はJICAプロジェクトによる専門家の講義と組み合わせたということです。



CME セッションの講師と NHTD 先生たちと

今回プロジェクトが招へいた専門家にお話し頂いたテーマは、ベトナム側希望に合わせて、現在世界各国で取り組みが進んでいる PrEP（曝露前予防内服）に焦点を当てました。PrEP は、ARV 薬を事前に飲むことで HIV の予防をするもので、HIV にかかりやすいハイリスクグループと呼ばれる人たちへの予防対策として注目されています。プロジェクトでもその Output2 として、ハノイ医科大学における PrEP の取り組みに協力していきます。今回は、世界各国における PrEP 実施状況（千葉大学病院：谷口先生）、日本での実施状況も踏まえた PrEP の実施管理について（国立国際医療研究センター（NCGM）：水島先生）、そして PrEP 実施と並行して注意すべき性感染症（NCGM：塩尻先生）に、それぞれ講義を頂きました。



学会発表者と保健省エイズ対策局副局長と



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



そして学会本体では、HIV/AIDS に関する各種の学術報告を聴講すると共に、プロジェクトからは HIV/AIDS 患者の C 型肝炎自然治癒に関する要因（NCGM：上村先生）、及び HIV/AIDS 治療の医療保険適用への移行に伴う HIV 感染者の懸念と課題（NCGM：松本プロジェクト専門家）について、それぞれ研究成果の発表がなされました。また、カウンターパートの NHTD・Tran Van Giang 先生からは我々 JICA・SATREPS のプロジェクト紹介もして頂き、活発な意見交換がなされました。



会議の後は NHTD 院長を交えて楽しく会食

科学技術協力としての研究成果の場として、そしてベトナムにおいて HIV/AIDS や各種の感染症対策のために努力しているベトナムの、そして海外の専門家が一同に会す今回の機会は、ネットワークづくり、そしてプロジェクトからの発信の機会として大変有意義だったと思います。もちろん、まだプロジェクトをしての研究は始まったばかりで、今回の発表は皆様先生方のこれまでの研究成果をシェアするという形でした。我々プロジェクトとしての研究成果を発表するにはまだまだこれからですが、後半年度には SATREPS プロジェクトとしての研究成果をドンドン出していけるように、今後努力していきたいと思います！